

浄法寺 木林事務所 月記

編集・発行
岩手北部森林管理署
浄法寺森林事務所
二戸市浄法寺町
小池2-1
TEL0195-38-203

発刊のぞいあいやつ



みなさん、はじめまして。浄法寺森林官の福田と申します。今月から月1でこの月記をお届けしたいと思います。ところどころ今日はお客さんがいらつしやるとのことですが…

シカ美 「はい、シカ美です。今日は福田さんにインタビューしてきました、よろしくお願ひします。」

福田 「あ、よろしくお願ひします。お手柔らかに。」



シ 「ところで『森林官』ってどんなお仕事ですか？」

福 「植付から伐採までの調査・現場監督、地域の窓口、学校への森林環境教育、などなど国有林に関わる様々なお仕事をしています。」

シ 「浄法寺地区にはどのくらいの国有林があるの？」

福 「約4千2百ヘクタールあって、東京ディズニーリゾート（約百ヘクタール）の4.2個分だよ。」

シ 「広くてよくわからな〜い！ 森林官は何年目ですか？」

福 「この5月で3年目に突入です。」

シ 「どこでお仕事してるの？」

福 「事務所は診療所とほほえみセンターの隣りだよ。事務所といっても私一人です。本署は八幡平市荒屋新町にある岩手北部森林管理署だよ。田山・兄畑・新町・小島谷・松尾など、国有林のある各地区に森林官は配置されています。」

シ 「最後に、月記を通してどんなことを伝えたいですか？」

福 「普段知る機会の少ない山の仕事、国有林の働きがどのように役に立っているのかを、そして浄法寺地区の魅力をみなさんに楽しくわかりやすくお伝えできたらと思っています！」

シ 「わかりましたー。原稿落ちしないようにがんばってくださいー。」



卯月



浄法寺地区は知る人ぞ知る国産漆の大産地です。国内で使用されている漆の98%以上が輸入のなか、残り2%の国産漆

の大部分を生産しています。その高い品質は漆器のみならず、金閣寺や平泉の中尊寺、日光東照宮など、世界文化遺産の修復に必要不可欠なものとなっています。このコーナーでは月毎に移り変わる漆の里の風景、そして漆に関わる人々を綴っていきます。

伝統産業である漆工芸は、例えば汁椀制作においても何工程も分かれており、多くの職人さんの技術が積み重なって私達の手に届きます。漆を採取するのもただ引っ掻くだけでは良質のものとは採れません。高品質な浄法寺漆には「漆掻き職人」の熟練した技術が必須なのです。採取のシーズン開始は6月ですが、その前に来月の月記では約68ヘクタールある国有林（分収造林）のウルシ林をご紹介します。お楽しみに。

林のスポットライト

このコーナーでは森林官が見つけたあれこれを通して、自然や森林の「ふしぎ！」「へえ〜」「おもしろい！」をご紹介します。

4月下旬といっても山の日陰はまだ根雪が残っています。木々が冬の眠りから醒めるのはもう少し先のこと。先日、調査に行った山でウリハダカエデの枯木に穴を見つけました。直径5センチほどで三角錐型のこの穴は、キツツキ類、もしくはコガラがエサを獲るために開けたものようです。深さは3センチ。ちょっと想像してみてください。小さな鳥が頭を突っ込んで夢中で開けている様子を…ちよつとおかしみがありますよね。まだ色どり少なくふと通り過ぎてしまいそうな場所でしたが、立ち止まって注意深く見ると生物の息づかいが聞こえてきます。



「きやばもち」

「きやば」は方言で柏のこと。では「柏もち」？いいえ、違います。小麦粉に黒砂糖、くるみなどを加えて作ったお菓子で、餅米は使っていません。冷温な東北地域では、米の収穫が難しく、ハレの食である「もち」に小麦を使ったことに由来しているのだとか。今はホットプレートで調理しますが、昔は「ほど焼き」のように囲炉裏の灰の中で焼いていたといいます。その際に柏の葉で包んでいたことからこの名になったそうです。蒸しパンに似た食感で、黒砂糖の優しい甘みが口に広がります。お茶を飲みながら食べたいですね。なかには柏の葉ごと食べる方もいるとか…。

【食べられるお店】キッチンガーデンなど

